

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地																															
専門学校東京アナウンス学院		昭和59年4月2日	船場 吉行	〒 164-0013 (住所) 東京都中野区弥生町1-38-3 (電話) 03-3375-4141																															
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地																															
学校法人東放学園		昭和54年4月1日	齊藤 晃	〒 168-0063 (住所) 東京都杉並区和泉2-4-1 (電話) 03-3323-8531																															
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																														
文化・教養	文化教養専門課程	ダンスパフォーマンス科	平成22(2010)年度	-	-																														
学科の目的	踊りと歌を武器に、数多くのメディアを賑わす個性的で影響力のあるエンターテイナーの養成・輩出をする																																		
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	<ul style="list-style-type: none"> ●HIPHOP、JAZZを中心に様々なジャンルのダンス基礎力と知識を修得できるカリキュラム ●ダンスと深い関わりのある歌(ヴォーカルレッスン)のレギュラー授業を開講 ●特別講座ではレギュラー授業にないジャンルや最新のスタイルを取り入れたダンスを学ぶ ●学内外問わず、イベント出演の機会を定期的に設け、知識・技術を定着させるとともに観られる意識をつける 																																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																												
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,700 単位時間 単位	90 単位時間 単位	0 単位時間 単位	1,650 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間 単位																											
生徒総定員	生徒実員(A)	留學生数(生徒実員の内数)(B)	留學生割合(B/A)	中退率																															
58人	18人	1人	0%	11%																															
就職等の状況	<ul style="list-style-type: none"> ■卒業生数(C) : 6人 ■就職希望者数(D) : 3人 ■就職者数(E) : 3人 ■地元就職者数(F) : 2人 ■就職率(E/D) : 100% ■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 67% ■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 50% ■進学者数 : 0人 ■その他 <p>・デビュー:3人</p> <p>(令和6年度卒業生に関する令和7年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和6年度卒業生) GODAI DANCE STUDIO、株式会社キーズ・エンド・ハマー、株式会社ジャパンエンターテイメント、専門学校東京アナウンス学院ほか</p>																																		
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL</p>																																		
当該学科のホームページURL	https://www.tohogakuen.ac.jp/announce/dance/																																		
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>1,700 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>90 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>1,020 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>60 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総単位数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)</td><td>単位</td></tr> </table>							総授業時数	1,700 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	90 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間	うち必修授業時数	1,020 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	60 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総単位数	0 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した演習の単位数	単位	うち必修単位数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位
総授業時数	1,700 単位時間																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	90 単位時間																																		
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間																																		
うち必修授業時数	1,020 単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	60 単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																		
総単位数	0 単位																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位																																		
うち企業等と連携した演習の単位数	単位																																		
うち必修単位数	単位																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位																																		
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位																																		
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>3人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>0人</p>							① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者	(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0人	② 学士の学位を有する者等	(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	3人	③ 高等学校教諭等経験者	(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位	(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人	⑤ その他	(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人	計		3人										
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者	(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0人																																	
② 学士の学位を有する者等	(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	3人																																	
③ 高等学校教諭等経験者	(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																	
④ 修士の学位又は専門職学位	(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人																																	
⑤ その他	(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人																																	
計		3人																																	

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

高度な実践力や意欲の発揮に欠かせない人間性や自立心を育み、環境や技術等の変化が著しい当該業界において順応力を持った人材を輩出するために、①学生が享受すべき知識や技術について、連携企業との日常的なコミュニケーション・意見交換を通じて、教育課程の編成や教育環境の構築に関して、積極的に反映させる事。②就職先ともなり得る連携企業に所属する社員を講師として招聘し、実習・演習授業において実利性・専門性が高いカリキュラムを構成する事。以上を、企業等との組織的な連携の基本方針としている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

学校長を委員長とし、以下、副校長、教務教育部長の他、就職指導や就職先企業の交渉等を主な業務とする学務管理部業務主任や学科運営を主たる業務とする学科主任を学内の委員とし、学科が委嘱する業界企業の方と業界関連団体に所属し、実践の環境を熟知し、あるいはそれらを俯瞰し統括する立場の方を学外の委員として構成している。

学外委員からは当該業界の動向や変化等について、学内委員からは学事や学生の動向等について意見交換を行い、積極的な情報共有を図る。また、カリキュラムのあり方や授業の構成について、同業界において求める人材像や育むべき人間性や実践力について等、これらの具体的要件に関しても意見交換や議論を行い、教育課程決定の基とする場として位置付けている。

当委員会の内容は、学内委員により学科毎に実施されているカリキュラム会議で発議がなされ、学科担当職員との意見交換を経て、重要度の高い項目等から教育課程の編成に取り入れられる。反映された項目は、次回以降の同委員会でフィードバックがなされ、今後の会議運営に役立てる事とする。以上を教育課程の編成に関する意思決定の過程としている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令7年8月23日現在

名前	所属	任期	種別
水城 大裕	一般社団法人日本芸能マネージメント事業者協会 理事	令和5年9月1日～令和8年3月31日	①
飯銅 勇紀	株式会社FEELIN TOKYO 代表取締役社長	令和6年9月1日～令和8年3月31日	③
船場 吉行	専門学校東京アナウンス学院 校長	—	—
川田 泰弘	専門学校東京アナウンス学院 教務教育部 部長 ダンスパフォーマンス科 学科主任(兼務)	—	—
大橋 真由美	専門学校東京アナウンス学院 学務管理部 部長	—	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (9月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年9月27日 14:00～15:30

第2回 令和7年3月12日 11:00～12:30

0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

委員会で交わされた意見や改善提案などは次期カリキュラム検討において熟慮し、実行する内容は可能な限り早期に取り組む。

●初回の教育課程編成委員会で話し合われたカリキュラム改変を進めて行く。具体的には従前のストリートダンス中心のカリキュラムからバックダンサー、コレオ系の最新スタイルを導入したものへ変革させる。⇒ 2025年4月から新講師を迎え、K-POPやJAZZ系授業の追加・拡充を図る。結果、5名の講師と5つの新授業を導入した。

●自己プロデュース力の強化が必要 ⇒ これまでも「セルフプロデュース」の授業で様々な内容を伝えてきたが、特に重要となる「SNS実習(音源&動画編集含む)」と「キャリアプランニング(一般常識・進路指導)」を独立させ、2025年から開講することとなった。

●在学中のインターンシップとして企業と連携して「模擬インストラクター実習」を検討。⇒ 2026年の2年生からスタートさせるべく企業と詳細を詰める。2025年7月には同連携企業による説明会・進路セミナーを実施し、企画進行中。

●最近のトピックとして“盆踊り”や“ディスコ”に注目が集まっている。盆踊りは地域創生と絡み、若手ダンサーの収入源になる。ディスコはバブル世代によって再燃しているよう。⇒ 2025年中に、何らかの説明会などを実施することとなった。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

個性あふれる突出した表現スキルを身に着け、誰からも必要とされる魅力的なダンサー・アーティストを育成するため、次のポイントを踏まえて企業等と連携を図る。

①ダンス・アーティスト分野に広く通じていて現場で必要とされる力やトレンド、課題に意識を持ち、カリキュラムを編成するにあたり有用なアドバイスを得られる企業を選定すること

②企業・業界団体から随時適切な助言を得て実習授業に反映し、学生に還元すること

③企業との連携により生まれる人脈から新たな講師を迎えたり、学生の現場体験の機会創出、進路先開拓を積極的に行うこと

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

業界で仕事を続けて行くために必要なダンスの技術と意識、また海外で活動する際に大変有用な英会話のスキルを高めるために企業と連携した実習授業を行う。身体各部の独立可動、様々なステップやムーブが形作られた当時の背景やそれを習得するためのコツ、舞台上立つ際の準備や意識、日々の練習方法など連携企業が主催するイベントやスクール運営におけるノウハウを毎回の授業で伝授する。英会話においては、単なる会話レッスンに留まらずHIPHOPカルチャーに関連付けた生きた英語、時にはスラングを学ぶ。毎回の授業は講義ではなく流行した音楽を用い、それ合わせて英語で会話したり歌唱・演技などをする。その際、映像を撮影・収録し、完成動画を共有して復習に役立てている。

学修成果については各授業、期末に試験を行い、企業が目線から到達度・成長度・取り組み姿勢・参加状況などを総合的に勘案し、評価付けをしている。また、本番発表などのステージがある授業はその成果を個別に、そしてチームとしても評価し、成績付けの根拠としている。上記の他、3月には学校全体の講師会を開催。当年度の振り返りと次年度授業に向けて情報共有・方針発表・授業依頼・懇親の場を設けている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
HIPHOP英会話	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	学生が主体となって企画・制作を手掛ける卒業公演において、2年間の集大成となるHOUSEの作品制作を行う。これまでの授業で体得してきたスキルを活かし、応用力を磨き、振付、構成を行っていく。	合同会社ROOTS
LOCK公演制作	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	学生が主体となって企画・制作を手掛ける卒業公演において、2年間の集大成となるPOPの作品制作を行う。これまでの授業で体得してきたスキルを活かし、応用力を磨き、振付、構成を行っていく。	株式会社FEELIN TOKYO
LOCK基礎強化	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	学生が主体となって企画・制作を手掛ける卒業公演において、2年間の集大成となるLOCKの作品制作を行う。これまでの授業で体得してきたスキルを活かし、応用力を磨き、振付、構成を行っていく。	株式会社FEELIN TOKYO

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記	
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 本校では「東放学園 教員研修規程」として教員研修の目的、方針、教員の責務、報告などの事項を定めており、教員の業務経歴や能力、担当する授業科目等に応じ、専攻分野の実務に関する知識、技術、技能並びに、学生に対する指導力等、教員の能力及び資質等の修得・向上を図るため、適宜、企業等の連携した研修を行うことを基本方針としている。	
(2) 研修等の実績	
① 専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: 第15回 CONTENTS TOKYO	連携企業等: RX Japan株式会社
期間: 2024年7月5日 14:30～16:30	対象: ダンスパフォーマンス科専任教員/教職員
内容 ●一般社団法人Metaverse Japan…AR等最新テクノロジーレクチャー、教育課程編成委員会参加依頼など ●株式会社IMAGICA GROUP…バーチャルプロダクションのデモンストレーション、授業やイベントでの活用を検討 ●パルス株式会社…VTuberやXRコンテンツのレクチャー、オーディション情報収集など産学連携を模索	
研修名: 教育的効果が望める新たなダンスイベントについて「World Dance Colosseum」	連携企業等: 株式会社FEELIN TOKYO
期間: 2024年10月20日 12:00～20:00	対象: ダンスパフォーマンス科専任教員
内容 HIPHOP、HOUSE、POPPING、LOCKING、WAACKING、KIDSの2on2のダンスバトルイベント～国内外のトップダンサーが集結し、技術と表現力を競い合う。2009年に創設され2024年からシンガポールで予選を日本で決勝を行う。 最新の世界的ダンスシーンに触れられ、本科実施のダンスバトルイベント改革にも大いに役立った。	
研修名: HIPHOPの歴史とDJ、サンプリング文化	連携企業等: 合同会社ROOTS
期間: 2024年12月21日 10:30～11:30(オンライン開催)	対象: ダンスパフォーマンス科専任教員
内容 ●HIPHOPの誕生 ●DJ文化について ●サンプリングとは ●1990年代のHIPHOPシーン ●ライムスター楽曲制作秘話	
② 指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: 障害者差別解消法セミナー	連携企業等: 公益財団法人日本ケアフィット共育機構
期間: 2024年9月17日 10:00～11:30(対面/オンライン双方で受講)	対象: ダンスパフォーマンス科専任教員/教職員/非常勤講師
内容 ●障害の個人モデルと社会モデル ●合理的配慮とは ●社会的障壁(バリア)は4種類…①事物 ②制度 ③慣行 ④観念 ●障害者差別解消法について ●合理的配慮の考えに基づいた障害を持つ人への適切な対応について	
研修名: 発達障害を対象としたカウンセリングの実践～事例から学ぶ対応～	連携企業等: 公益社団法人東京都専修学校各種学校協会
期間: 2025年1月30日 14:00～15:30	対象: ダンスパフォーマンス科専任教員
内容 ●発達障害(ASD・ADHD・LD)とそれぞれの特徴 ●発達障害と精神疾患の違い ●発達障害を有する学生と想定しうる具体的な事例集 ●参加者からの事前質問回答・相談・体験談共有 ●合理的配慮について	

<p>研修名: 生成AIの教育利用について</p> <p>期間: 2025年3月17日 14:00～16:25</p> <p>内容 ●教育現場における生成AIの活用(1)…時代の変化と前提。現在、初等中等教育では生成AIを活用する力を高めていく方針であり、専門学校は数年後にそれら生徒を受け入れることになる。日々生成AIを活用する学生にどのような指導法が望ましいか考える。 ●教育現場における生成AIの活用(2)…教育最前線の活用・研究事例紹介。</p>	<p>連携企業等: 公益社団法人東京都専修学校各種学校協会</p> <p>ダンスパフォーマンス 対象: 科専任教員 ／教職員</p>
<p>(3)研修等の計画</p> <p>①専攻分野における実務に関する研修等</p>	
<p>研修名: HIGHSCHOOL DANCE COMPETITION 2025 FINAL</p> <p>期間: 2025年4月19日 11:00～19:00</p> <p>内容 2015年から開催されている全国の高等学校及び高等学校に準じる教育機関に在学している学生を対象とするダンスコンテスト。全国各地で予選を開催、FINALは両国国技館にて行われ高校ダンス部・同好会の日本一を決める大会である。イベント運営の流れや留意点などを学ぶ事ができ、若年層の流行を知る重要な機会となる。</p>	<p>連携企業等: 株式会社アノマリー</p> <p>ダンスパフォーマンス 対象: 科専任教員</p>
<p>研修名: DANCE ALIVE 2025 FINAL</p> <p>期間: 2025年4月20日 11:00～20:00</p> <p>内容 2005年に日本で誕生した1on1形式の世界最大規模のストリートダンスバトルの決勝戦。全国8地区で予選が開催され、勝ち上がったFINALISTたちが両国国技館で日本一を競い合う。毎年12万人以上が来場する業界の最先端を体感できるイベント。様々なダンサーやOBとの交流によって、今後のダンスシーンを見通せる重要な機会。</p>	<p>連携企業等: 株式会社アノマリー</p> <p>ダンスパフォーマンス 対象: 科専任教員</p>
<p>研修名: DANCE to SOCIAL…2025 Summer</p> <p>期間: 2025年6月19日 13:00～16:35(オンライン開催)</p> <p>内容 ●第一部:今の時代にダンサーが輝くための本質的な力とは ●第二部:それってほんとにダンス教育の常識?価値観がぶつかる60分(ディベート) ●第三部:ダンサーの夢を広げるダンススクールの取り組みと挑戦</p>	<p>連携企業等: 株式会社hacomono</p> <p>ダンスパフォーマンス 対象: 科専任教員</p>
<p>②指導力の修得・向上のための研修等</p>	
<p>研修名: 自分の授業を自分で改善!セルフ授業改善のための視点10選</p> <p>期間: 2025年4月24日 17:30～19:00</p> <p>内容 ●第一部:姿勢編(3視点)自分の授業が煮詰まったら振り返りたい姿勢 ●第二部:授業構造編(4視点)「5分導入・40分展開・5分まとめ」を超える! ●第三部:実践編(3視点)生徒が学び続ける授業づくりのテクニック</p>	<p>連携企業等: 株式会社NextTeachers</p> <p>ダンスパフォーマンス 対象: 科専任教員 ／教職員</p>
<p>研修名: 「Z世代の心を掴む」「Z世代を知る」など※過去実績</p> <p>期間: 随時(オンライン開催)</p> <p>内容 株式会社文化放送カスタマー事務局主催のオンライン研修。Z世代など特に若手を理解し適切に対応するために必要な指導法や対応例を知ることができる。</p>	<p>連携企業等: 株式会社文化放送</p> <p>ダンスパフォーマンス 対象: 科専任教員 ／教職員</p>
<p>研修名: 能動的学習の指導方法※昨年実績</p> <p>期間: 2026年2月頃(昨年度は2025年2月28日に実施)オンライン有り</p> <p>内容 東京都私学財団主催の教員向け研修。毎年定期的で開催され、学生への指導法に関する講座が複数用意される。授業方法や進路支援に関する講座を積極的に受講していきたい。</p>	<p>連携企業等: 公益財団法人東京都私学財団</p> <p>ダンスパフォーマンス 対象: 科専任教員 ／教職員</p>

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

- ①教育の一層の充実を図り、学校の目的および社会的使命を達成するため、各校における教育活動等の状況について定期的に関係者評価を行い、随時改善を図ることを目的とする。
- ②学園は充実した学校評価制度の構築に努め、各校・各部門はこれを実施する体制を整える。
- ③各校・各部門は、情報公開を念頭に置き、より高い基準を設定し関係者評価を実施する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	使命、行動指針、教育方針、理念、目的、育成人材像
(2)学校運営	運営方針、事業計画、運営組織、人事・給与制度、意思決定システム、情報システム
(3)教育活動	目標の設定、教育方法・評価等、成績評価・単位認定等、資格・免許取得の指導体制、教員・教員組織
(4)学修成果	就職率、資格・免許の取得率、卒業生の社会的評価
(5)学生支援	就職等進路、中途退学への対応、学生相談、学生生活、卒業生・社会人
(6)教育環境	施設・設備、学外実習・インターンシップ等、防火・安全管理
(7)学生の受入れ募集	学生募集活動、入学選考、学納金口
(8)財務	財務基盤、予算・収支計画、監査、財務情報の公開
(9)法令等の遵守	関係法令・設置基準の遵守、個人情報保護、学校評価、情報公開
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献の取り組み、ボランティア活動の取り組み
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

評価項目それぞれに対し、各委員から積極的かつ前向きなご意見をいただいた。それを職員間で共有し、様々な面から学校の改善に役立っている。

【意見・提案】VTuberや留学生の進路先をより広く開拓すべき

⇒学科名を変更した配信クリエイター科の進路先開拓は急務で、関連の見本市や展示会などでも企業との交流を図り人脈を広げた。また、留学生支援においては、在籍数が一番多い声優科が職業実践専門課程の認定を受けることで、進路先企業の幅が広がる。結果、2024年度に申請をし、認定を受けることができた。

【意見・提案】専門学校でも探求学習のような授業はあるか

⇒先生から学生に対して一方通行のような授業は学生の注意力も散漫になり、学習効果も高く望めないことから、殆どが双方向のやりとりをもつ実習授業となっている。今後は学生が自ら課題を見つけ、あまたある情報を的確に収集・選定し分析することで問題解決能力向上を望める授業を増やして行く。

【意見・提案】学生ボランティア活動はどのくらいあるか。ただし、ボランティアには一切強制力を持たせてはならない。

⇒学生のボランティア活動にサークルのようなものはなく、依頼を受けての活動が殆どである。今後は地域との交流や社会貢献の面からも、受けの活動だけではなく学校・学生から社会に発信していけるよう、SNSなども通じて啓蒙していきたい。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
中山 博実	一般社団法人日本芸能マネージメント事業者協会 理事	令和7年4月1日～令和9年3月31日	進路先及び関連業界関係者
中濱 敏彦	星槎国際高等学校 星槎中野サテライトキャンパス フェリーチェ高等学院 教頭口	令和7年4月1日～令和9年3月31日	高等学校教諭
坂上 晶	専門学校東京アナウンス学院 放送声優科卒業生	令和6年4月1日～令和8年3月31日	卒業生
田頭 心	声優科1年生保護者	令和7年4月1日～令和9年3月31日	在校生保護者

授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			中間発表	学科で重視しているHIPHOP、HOUSE、POP、LOCK、JAZZ それぞれの成果発表をする。構成・振り・曲・映像・衣装・照明等も自分達で検討することで公演制作を広く経験する。	1・後	60	2			○	○		○		
2	○			HIPHOP 基礎 (リズム) I	ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーションなど土台となる基礎力UPとその重要性の理解を深め、HIPHOPダンスの基礎知識を習得。	1・前	30	1			○	○			○	
3	○			HIPHOP 基礎 (リズム) II	ソロ、ユニット、チームと様々なバリエーションでHIPHOPダンスの振付を創作。フリースタイルにも対応できるグルーブ感、即興性を身につける。	1・後	30	1			○	○			○	
4	○			HIPHOP 基礎 (NEW STYLE) I	アイソレーションを始め、アップ・ダウン等のリズムの取り方を習得し、クラブやスマーフなどの基礎的なステップを学習していく。	1・前	30	1			○	○			○	
5	○			HIPHOP 基礎 (NEW STYLE) II	アイソレーションや身体作りなどベースとなる基礎力を高めつつ、90年代～現在に至るまでのHIPHOPダンスを学び、ステップやコンビネーションを理解する。	1・後	30	1			○	○			○	
6			○	JAZZ HIPHOPa	基礎をしっかりと身に付け、踊り方や表現力の幅を広げる。毎レッスングループで踊ってもらう。	1・前	30	1			○	○			○	
7			○	R&B HIPHOPa	リズムトレーニング&アイソレーションをウォームアップとして行い、その後コレオのルーティンを入れる。	1・後	30	1			○	○			○	
8			○	HIPHOP英会話	ラップ音楽やストリートダンスなど親しみやすいテーマを扱い、特にスピーキングの技能の習得を中心に、ライティング、リスニングを含む実践的な英語コミュニケーション力を高める。	1・前	30	1			○	○			○	○
9			○	HOUSEa	HOUSEダンスの基本ステップの習得。リズムトレーニングとフリースタイルの練習方法を学び、自分の力で振付を作れるようになる。	1・後	30	1			○	○			○	

21	○			キャリアプランニングⅠ	社会人としての最低限のマナーを習得し、ダンスを仕事にする上での基礎知識やダンス業界の職種に対する見識を深め卒業後の進路決定につなげる。	1・通	30	2	○			○		○	
22	○			オリジナリティ表現	あらゆる時代のダンスや音楽背景を知る事により、ダンサーとしての知識を深め、ダンス生活術などについても学ぶ。	1・前	30	1				○	○		○
23			○	ヴォーカルレッスンa	自分のキー、個性を活かせる曲層を理解し、不得意な高さ、ジャンルを分析後、克服する。	1・前	30	1				○	○		○
24			○	ヴォーカルレッスンb	幅広い高さの音をキレイに共鳴させる場所を自分の身体に覚えさせ、確認する。また、動きを加えた時に、ぶれないように、腹式呼吸を身につける。	1・後	30	1				○	○		○
25	○			芸術鑑賞Ⅰ	劇団の公演やプロデュース公演を観劇し、自身の専門分野の知識・見識を高める。	1・通	30	1				○		○	○
26	○			特別講座Ⅰ	最新のスタイルや海外ダンサーによるレッスンを行い、視野を広げるとともにプロダンサーをめざす意識の向上を図る。	1・通	30	1				○	○		○

27	○		イベントパフォーマンスI	普段のダンスイベントとは違った環境や観客の層に合ったダンスパフォーマンスは何か、構成・振付・衣装などから考え、表現者としての力を身につける。	1・通	30	1			○	○	○						
28		○	体験入学アシスタントa	体験入学を一つのイベントとして会場セッティング、誘導、参加者対応の行い、ダンスレッスンを担当する講師のアシスタントとして将来インストラクターになる上で必要な知識、コミュニケーションを学ぶ。	1・通	15	1			○	○	○						
29	○		卒業公演	2年間を集約したショーを制作し公演。主要ジャンルのHIPHOP、HOUSE、POP、LOCK、JAZZナンバーを講師と共に制作。それに学生ナンバーと映像や芝居などを組み合わせ、何らかのテーマを持った2時間程の作品を作る。	2・通	120	4			○	○	○						
30	○		HIPHOP公演制作	学生が主体となって企画・制作を手掛ける卒業公演において、2年間の集大成となるHIPHOPの作品制作を行う。これまでの授業で体得してきたスキルを活かし、応用力を磨き、振付、構成を行っていく。	2・後	30	1			○	○							○
31	○		HOUSE公演制作	学生が主体となって企画・制作を手掛ける卒業公演において、2年間の集大成となるHOUSEの作品制作を行う。これまでの授業で体得してきたスキルを活かし、応用力を磨き、振付、構成を行っていく。	2・後	30	1			○	○							○
32	○		POP公演制作	学生が主体となって企画・制作を手掛ける卒業公演において、2年間の集大成となるPOPの作品制作を行う。これまでの授業で体得してきたスキルを活かし、応用力を磨き、振付、構成を行っていく。	2・後	30	1			○	○							○
33	○		LOCK公演制作	学生が主体となって企画・制作を手掛ける卒業公演において、2年間の集大成となるLOCKの作品制作を行う。これまでの授業で体得してきたスキルを活かし、応用力を磨き、振付、構成を行っていく。	2・後	30	1			○	○							○ ○
34		○	バックダンサー実習	JAZZの基礎スキルを高めるとともに、隊列や形の揃え方など、人に魅せるために必要な要素を学ぶ。	2・前	30	1			○	○							○
35		○	JAZZ振りつけ・構成	これまでの授業で習得してきたスキルを活かし、応用力を磨き、アップテンポからスローテンポまで幅広い振付・構成を行っていく。作品創りに関してはコンセプトを持ち、それを一緒に踊るメンバーと共有していく。	2・後	30	1			○	○							○
36		○	CLASSIC JAZZa	バレエやジャズを通して身体の仕組みやケアの方法、重心移動などを学ぶ。バレエは台詞や歌詞を持たずに物語を進める。そのノウハウを活かし、表現力を高め、自信のある立ち振る舞いなどを身につける。	2・前	30	1			○	○							○
37		○	CLASSIC JAZZb	身体の仕組みやケアの方法、重心移動などを学ぶ。バレエのノウハウを活かして表現力を高め、自信のある立ち振る舞いなどを身につける。前期で学んだ要素をより追及し、理解を深めていく。	2・後	30	1			○	○							○

38			○	HIPHOP マスターc	HIPHOPダンスに必要な不可欠なベーシックステップとその派生を主軸に学ぶ。コレオグラフとしては、カルチャーの時代背景を含めて1つのステップを掘り下げて習得していく。	2・前	30	1						○	○				○
39			○	HIPHOP マスターd	HIPHOPダンスを踊る上で必要なリズム基礎練習を中心に、ストリートダンス全般に生かせるようなリズムトレーニングを使う。又、身体の動かし方、筋力トレーニングも行い、動きをスムーズに行えるようにする。	2・後	30	1						○	○				○
40			○	HOUSE マスターc	ハウス独特のリズム&ステップのベーシックパートを徹底的に練習し、レアなグルーヴ感を身体で覚える。ステップの複雑な応用、活用の方法を学び、体の使い方を理解し、同時に様々なパーツを使えるよう練習する。	2・前	30	1						○	○				○
41			○	HOUSE マスターd	HOUSEダンスをメインジャンルにすると仮定し、プロフェッショナルな意識の向上やフリースタイルに対応できるような感覚を習得。フィジカル面以外での部分の強化を図り、応用力を身に付ける。	2・後	30	1						○	○				○
42			○	POPマスターc	ポッピン・ブーガル・アニメーションなど、様々なスタイル全般を集中して学習。リズム、音楽、成立ちを理解し、ダンスで表現できるトレーニングを行う。	2・前	30	1						○	○				○
43			○	POPマスターd	POPダンスの応用に加え、他ジャンルのダンスにPOPのテクニックを応用する上で必要なスキルを理解し、習得する。包括的にPOPダンスを学ぶ事でより細かく自身の体の動かし方を把握し、身に付ける。	2・後	30	1						○	○				○
44			○	LOCKマスターc	LOCK DANCEの基礎やカルチャーを理解し、それを発展、応用させる。ソロの練習やバトル、またはセッションなども行い、個人レベルの向上を図る。	2・前	30	1						○	○				○
45			○	LOCKマスターd	前期の基礎をベースにLOCKの応用(難解な振りの構築、ソロのレベルアップ)を促す。自身で振りを作って解説を行い、振りだけでなくソロ(バトルやショーケース)を習得する事によりダンススキルの向上を目指す。	2・後	30	1						○	○				○
46	○			HIPHOP基礎強化	基礎を固め直すと共に独自のスタイルを取り入れ、技術と表現力を伸ばしていく。レッスンではベーシックステップの復習とニュースクール的なセンスの獲得を目指し、徐々にトリックを加えていく。	2・前	30	1						○	○				○
47	○			HOUSE基礎強化	基本ステップの応用、活用方法を理解し、より自然に即興が行えるように練習する。音楽によって変化するフィーリングやコンセプトを理解して、ダンスに幅を持たせ、HOUSEダンスをマスターしていく。	2・前	30	1						○	○				○
48	○			POP基礎強化	様々なテクニックを固め直し、応用できるよう細かいスタイル(パペット、トイマン、スケアクロウ、キングタット、コブラ等)を習得。それらを駆使して即興ダンスやルーティン作りを行う。	2・前	30	1						○	○				○

49	○		LOCK基礎強化	1年次の基礎を固め直すと共に、LOCKの特徴的な動きを身に付け、センスの体得を目指しながら独自のスタイルを模索していく。スクーバップ、STOP&GO等のコンビネーションを習得し、更なるレベルの向上を図る。	2・前	30	1			○	○			○	○
50	○		セルフプロデュースⅡ	プロダンサーに必要なセルフプロデュース力として、音楽編集、映像編集、インストラクター術などダンス以外に必要なスキルを身につける。	2・前	30	2	○			○			○	
51	○		ダンサー社会知識	エンターテイナーとしての本質を学び、表現力を鍛え、心身共に豊かな表現力を持つダンサーを育成する。ダンサー、表現者、エンターテイナーに必要とされる身体的技術、社会性、ダンス知識を習得する。	2・後	30	2	○			○			○	
52	○		芸術鑑賞Ⅱ	エンターテインメントの華やかなパフォーマンスに刺激を受け授業の糧にする。劇団や評判の高いプロデュース公演、小劇場や美術、場内アナウンスに至るまで幅広く吸収する。	2・通	30	1			○		○	○		

53	○		特別講座Ⅱ	オールジャンルにおける流行スタイル、話題のダンサーによるレッスンやめったに受けられない一流ダンサーによるレッスン、海外ダンサーによるレッスン等、年間通して特別授業を行う。	2・通	30	1			○	○	○		
54	○		学校行事ダンスイベントⅡ	全科向けの学校行事複数回でパフォーマンスをする。構成・振付・衣装などから自分達で検討し、普段のダンスイベントとは違った環境や観客の層に合ったダンスを企画・準備し披露する。	2・通	30	1			○	○	○		
55		○	体験入学アシスタントb	案内、誘導、参加者からの質問対応などで接客性、協調性を学ぶ。また将来インストラクターとして活動する為、レッスンの中で講師や参加者をサポートする。更に参加者への適切な対応力を身に着ける。	2・通	15	1			○	○	○		
合計						55	科目	1740 単位 (単位時間)						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件:	①期日までの学費納入 ②必修科目を含む年間800時間以上、卒業時1700時間以上の修了認定	1学年の学期区分	2期
履修方法:	シラバスや初回授業(ガイダンス)で内容を確認し、期日までに履修科目の登録を行う	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。